

タジキスタン共和国概要

2024年11月
(一社)ROTOBO

1. 基本情報

- (1) 地勢：旧ソ連中央アジアの東南端に位置する内陸の小国。国土の93%が山岳で、中央アジア諸国としては例外的に水資源が豊富だが、炭化水素資源に乏しい。主産業は水力発電とアルミニウム精錬、綿花栽培。
- (2) 面積：14万3,100km² (日本の0.4倍)
- (3) 人口：1,014万3,543人 (2023年/世銀)
- (4) 首都：ドゥシャンベ市 (98.6万人/2023年世銀)
- (5) 主要都市：フジャンド (19.6万人)、ボフタル (旧クルガン・テッパ、11.3万人)、クリャブ (21.7万人)、イスファラ (28.1万人)、ペンジケント (30.5万人)。(2020年タジキスタン国勢調査)
- (6) 民族：タジク人 84.3%、ウズベク人 13.8%、その他 2% (2014年推計*)
- (7) 言語：国家言語はペルシャ語系のタジク語。ただし、ロシア語も憲法上で民族間交流言語として定義されており、広範に使用される。
- (8) 宗教：タジク人はじめ中央アジアの在来民族はイスラム教スンニ派 (ただし、戒律は相対的に緩い)、ロシア人はキリスト教のロシア正教。



2. 政治情勢

(1) 独立

1991年9月に共和国独立宣言。同年末のソ連邦解体により実質的に独立。(それまではソ連邦を構成するタジク・ソヴィエト社会主義共和国)

(2) 大統領

E. ラフモン (RAKHMUN, Emomali Sharifovich)。1952年生れ (69歳)。独立時より内戦に見舞われたタジキスタンにおいて、和平プロセス進行中に頭角を現した無名の元コルホーズ長。1994年11月の大統領選挙で初代大統領に選出され、以後、長期政権を確立。2007年4月よりラフモンと称する。本来、大統領は三選禁止だが、2016年、同大統領に限り「国家指導者」として多選制限が撤廃された。2020年10月の選挙では得票率90.92%で再選。

2022年10月、カザフスタンで開催されたロシアと中央アジア諸国の首脳会議において、プーチン大統領に対し「属国扱いをやめ、小国なりとも敬意をもって扱ってほしい」との異例の発言を行い、世界的注目を浴びた。

3. 経済状況

(1) 経済水準

- (イ) GDP (2023年) : 120.6億ドル*
- (ロ) 国民1人当たりGDP (2023年) : 1,189.0ドル*
- (ハ) 月平均名目賃金 (2022年) : 156.9ドル**

(2) 主要産業・輸出品

- (イ) 主要産業 : 水力発電、アルミニウム、農業
- (ロ) 主要輸出品 : 金、貴石・半貴石、アルミニウム、綿・同製品、鉛、アンチモン

(3) 経済指標 (前年比増減率、%) **

タジキスタンの主要経済指標 (対前年比増減率 %)

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
国内総生産 GDP	6.9	7.1	7.6	7.4	4.4	9.2	8.0	8.3**
鉱工業生産	16.0	21.3	11.5	13.2	8.8	22.0	15.4	12.0
農業生産	5.2	6.8	4.0	7.1	8.8	6.6	8.0	9.0
固定資本投資	14.7	1.7	17.5	▲6.3	▲5.9	23.3	11.4	22.5
商品小売販売高	6	6	7	10	▲0.7	13.2	10.5	15.3
インフレ率(消費者物価指数)	5.9	7.3	3.8	7.9	8.6	9.0	6.6	3.7

◆データ出所 : *世界銀行、**CIS統計委員会。

4. 貿易・投資

(1) 貿易

(イ) 貿易額*

- 輸出 (2022年) : 21億4,200万ドル / (2023年) 24億4,880万ドル (14.3%増)
- 輸入 (2022年) : 51億6,750万ドル / (2023年) 58億8,010万ドル (13.8%増)

(ロ) 主要貿易国**

- 輸出 (2023年) : ①スイス(46.5%)、②中国(12.8%)、③カザフスタン (10.4%)
- 輸入 (2023年) : ①ロシア(26.9%)、②中国(20.2%)、カザフスタン (15.2%)

(2) 日本との関係

- (イ) 日本は1991年末、他の旧ソ連諸国同様、タジキスタンを国家承認。2002年1月に日本大使館 (駐在官事務所) が (大使館への格上げは2016年初)、2007年11月に在日タジキスタン大使館が開設。

(ロ) 日本との貿易***

- 日本の輸出 (2023年) : 3,424万ドル。食料品 (46.5%)、乗用車 (41.7%)、電気機器 (7.7%)

日本の輸入（2023年）：44.4万ドル。植物性原材料（甘草エキス）（97.8%）
※日本企業進出状況： 長らく日本からの進出例は、宏輝（株）による合弁企業「AVALIN」一例のみが知られていた。2009年4月設立、出資比率は日本側・宏輝49%、現地側51%。甘草から薬品原料を製造する。2011年9月に現地に工場開設。日本のタジクからの輸入は、同社が生産する甘草エキスがその太宗を占める。一方、2022年3月、五常・アンド・カンパニー（株）による現地マイクロファイナンス企業「Humo」の買収が報じられた。約6.6億円を投じ、同社株式の過半数を獲得したとのこと。

(ハ) 在留邦人数（2023年10月現在）：59人****

(二) 在日当該国人数（2023年6月現在）：311人****

◆データ出所：*タジキスタン統計庁、**タジキスタン関税庁、***日本国財務省貿易統計をもとにドル換算、****日本国外務省ウェブサイトより。（二）の原出所は法務省。